

1、本園の教育目標

- ・健康で活力のある子供に育てる
- ・主体性のある子供に育てる
- ・自ら考えて学ぶ力を持つる子に育てる
- ・心の優しい子供に育てる

2、本年度、重点的に取り組む目標、計画

- ・幼稚園教育の大切さを守り、縦割り保育を活用した教育の向上システムを充実、活用して、学ぶことへ楽しさを知ってもらえるように、情熱を持って保育にあたる。
- ・デジタル機器を使って園内研修を充実させ、園の良さや課題を明確にし、子どもの主体性を大切に考え、情熱をもって保育にあたる。
- ・家庭や地域に積極的に働きかけられるような情報発信をする。(園だよりやクラスだよりに普段の様子の写真添付など)

3、評価項目の達成及び取り組み状況 (5段階評価)

評価項目	取り組み状況	評価点
・人との関わりを通して豊かな人間作りを目指すために園内での縦割り保育の充実を目指す ・非認知能力の獲得を目指した、10の姿を達成させる保育。	月一回及び毎学期末、夏休み中の園内研修を通して、園全体の保育の資質向上を目指している。 毎日の、保育終了後の午後の会(終礼)の時に、評価ポイントの具現化に向けて「良いこと見つけ」を各担任より提案してもらい評価ポイントの共通理解を目指している。 習慣化や振り返りの充実を図ることで共通理解が図れてきた。	
幼稚園の情報発信について考え検討する	クラスだよりや園だよりにより子どもの様子を載せることで園の教育について随分理解をいただいていると思う。また、地域や未就園児親子にも発信すべく HP開設に赤ちゃん教室の日程を記載して実行した。反響があり、参加者も増えてきた。今後は更に園理解や来園につながるよう魅力的な内容について考えていく。	
園や地域における子育て支援活動について考える。 園庭開放を通して幼児教育を理解してもらう。	研修会へ参加したり、子育て支援活動の考えを取り入れ積極的に0～2歳児の参加しやすい会など取り入れた。 また、幼稚園などのシステムがわからない乳児を抱える保護者に対して電話相談や対面での相談に意欲的に対応する。 園庭開放等で開かれた園経営を目指す。	

4、今後取り組むべき課題

課題	具体的取り組み
非認知能力の学習内容の見える化	具体的に必要と思われる項目を職員で検討して、行う活動内容の設定。
園児獲得に向けて	少子化の中園児数減少の実態の把握や、動線の調査。 保育の見える化。
教育課程や指導計画の編成	子供達により良い環境の中で教育を充実させるため、継続的な園内研修の充実と振り返り評価。

5、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

--

6、財務状況

--